

2011(平成23)年度  
法務研究科 法務専攻(法科大学院)B日程 入学試験問題

「 憲 法 」

〈60分〉

(注意：解答はすべて解答用紙に記入すること。)

---

次の問題文を読んで、後の設問に答えなさい。

20XX年の参議院議員通常選挙で、与党は、議席数を減らし、非改選議席を含めても過半数には届かず、参議院では少数与党となった。これによって、衆参それぞれで多数派が異なるという、いわゆる「ねじれ国会」が出現した。この状況下で、与党は、衆議院において3分の2を超える議席を保持していなかったことから、与党が重要と考える法律の制定などでしばしばつまずいた。そのため、参議院における多数派工作を模索しながら野党側との協調路線の探求に苦慮するという事態が続いた。

そこで、A首相は、次回の参議院議員通常選挙の期日に合わせて衆議院議員総選挙を実施して、衆参双方で与党が過半数を占めることで「ねじれ」を一気に解消しようと考えた。そのため、A首相の内閣は、衆参同日選挙をもたらす目的で、適宜の期日をはかって衆議院を解散し、同日選挙が実施された。

なお、上記20XX年参議院議員通常選挙においては、1票の格差が最大5倍であったところ、高裁段階では判断が違憲と合憲に分かれ、最高裁は違憲状態だとする判決を出していたが、上記衆参同日選挙は、この格差を是正する措置が何ら講じられないまま行なわれたものである。

【設問】 問題文のような状況の下でなされた解散にはどのような憲法上の問題点があるか、論じなさい。